

日本語(国語) 【小1】 指導カリキュラム

日本語テキスト



ユニット・指導内容・指導単元一覧表

- 1ユニットの指導モジュール配分は、日本語力のステップに応じて比率を決める。
現在の日本語カレベルと現在の学年の学習内容、1ユニット・モジュール配分比率は、概ね下記のようにする。

	ステップに応じた指導内容	:	現在の学年学習内容
【S1】	8	:	2
【S2】	7	:	3
【S3】	5	:	5
【S4】	2	:	8

『指導ユニット・モジュール数配分例』

31	:	8	(モジュール数39モジュールの場合)
19	:	8	(モジュール数27モジュールの場合)
9	:	9	(モジュール数18モジュールの場合)
2	:	7	(モジュール数 9モジュールの場合)

日本語(国語)【小1】4月 指導カリキュラム(日本語テキスト・ユニット・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小1 4月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容 OS1 初期指導 OS2 初級指導
あさ(話・聞②) 詩を読む[季節・歌]	◎先生の問いに答え、見つけたこと、思い出したこと、想像したことを発言できる。 「あさ」の詩[し]を声[こえ]に出し[だし]て読む[よむ]。
【語彙・表現】 いい こと たくさん いちにちが はじまる ぼくも わたしも せんせいも つながる つながる まるく なる	みんな なかよし いちねんせい つながる つながる まるくなる みんな なかよし いちねんせい さあ はじめよう
なんていおうかな (話・聞②) あいさつ[話す]	◎相手に応じて、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけてあいさつする。 ▲ 丁寧[ていねい]な言葉[ことば]と普通[ふつう]の言葉[ことば]との違い[ちがひ]に気をつけてあいさつする。 ☆生活科
どんなおはなしか (読②) 読み聞かせ[聞く]	◎先生が読んでくれる本を、挿絵[さしえ]や写真[しゃしん]を見ながら、想像[そうぞう]をふくらませて聞く[きく]。
どうぞよろしく (話・聞①、書②) 自分の名前[語彙] 自己紹介[話す]	◎相手によく分かるように、自分の名前などを書く。 ★ 自分[じぶん]の名前[なまえ]などを書く[かく]。 ◎友達に知ってもらいたい事を考え、自己紹介する。 ★ 自己[じこ]紹介[しょうかい]
こえのおおきさどうするの (話・聞①) 声の大きさ	◎場面に合わせた声の大きさで話す。 ①四つの場面ごとにどんな声の大きさで話しているかを考える。 ②場面や状況に応じた声の大きさについてまとめる。

うたにあわせてあいうえお
(読②)

ひらがなをよむ[文字]
ひらがなをかく[文字]

- ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読する。
言葉[ことば]のまとまりで区切[くぎ]って、はっきりと読む[よむ]。
- ◎平仮名で母音を含む単語を書く。

あかるい
あさひだ
あいうえお

いい こと
いろいろ
あいうえお

うたごえ
うきうき
あいうえお

えがおで
えんそく
あいうえお

おいしい
おむすび
あいうえお

ことばをつくろう (書②)
○で始まることば[語彙]
2文字・3文字のことば[語彙]

- ★ 平仮名[ひらがな]で母音[ぼいん]を含む[ふくむ]単語[たんご]を書く[かく]。
- ◎音節と文節の関係に気づく。
- ★ 「あ・い・う・え・お」の文字。 文字の組合せ[くみあわせ]。

ことばを つくろう
「あ」「い」「う」「え」「お」のつくことば

日本語(国語)【小1】5月 指導カリキュラム(日本語テキスト・ユニット・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小1 5月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容 OS1 初期指導 OS2 初級指導
えをみてはなそう (話・聞②) 主語と述語 「。」 「ばびぶべほ」	◎絵を見ながら、型に合わせて尋ねたいことを見つけて質問したり、質問に答えたりする。 ◎一つの文の中には主語[しゅご]と述語[じゅつご]、があることを理解し、文の終わり[おわり]に「。」をつける。
【語彙・表現】 なにが いますか。 さるが います。 どこに いますか。 きの うえに います。	
かきとかぎ (書②) にごる おと	◎平仮名[ひらがな]で、★濁音[だくおん]を含む[ふくむ]単語[たんご]や文を書く[かく]。
【語彙・表現】 さる ざる かき かぎ こま ごま ふた ぶた さるの だいじな かぎの たば げんかん うらぐち まど とだな どれが どれだか わからない	
あさのおひさま (読①) 音読	◎リズムや繰り返し[くりかえし]を意識[いしき]して音読[おんどく]する。 ◎鳥と実の色などを想像しながら読む。
【語彙・表現】 あさの おひさま あさの おひさま おおきいな あかい かお のっこり うみから ざぶんと うみで おきだした あらったよ	
はなのみち (読⑥) 音読	◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読する。 ◎文章や挿絵を見ながら、場面の様子について、想像を広げて読む。
【語彙・表現】	

くまさんが、
ふくろを 見つめました。
「おや、なにかな。
いっぱい
はいて いる。」

くまさんが、
ともだちの
りすさんに、
ききに いきました。

くまさんが、
ふくろを あけました。
なにも ありません。
「しまった。
あなが あいて いた。」

あたたかい かぜが
ふきはじめました。

ながい ながい、
はなの
いっぽんみちが
できました。

ぶんをつくろう (書④)
「～が～する。」という文

◎「～が～する。」という文型[ぶんけい]の文を書く[かく]。

【語彙・表現】

きつねが はしる。 さるが 。 ぶたが 。

ぶんのおわりには、まる (。) を つけます。
▼ぶんをつくりましょう。おわりに、まるを つけましょう。

ねことねっこ (書②)
促音・半濁音

★ 促音[そくおん]・★ 半濁音[はんだくおん]の表記[ひょうき]。

【語彙・表現】

ねこが いっぴき、
はらっぱ はしる。
ねっこ とびこえ、
ばったと かけっこ。

ねこ ねっこ
はらっぱ
いっぴき
しっぱ

わけをはなそう
(話・聞②)

◎身近なことや経験したことなどを思い出し、話題に沿って話す。
◎話型に沿って「わけ」を話す[はなす]。「どうしてかという」と

【語彙・表現】

わたしは 。 どうしてかと いうと、 。

日本語(国語)【小1】6月 指導カリキュラム(日本語テキスト・ユニット・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小1 6月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 [S1] 42:10 [S2] 25:11 [S3] 12:12 [S4] 3:13	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容 ○S1 初期指導 ○S2 初級指導
おばさんとおばあさん (書②) 音読 のばすおと 助詞「を」	◎唱え歌をリズムに気をつけて読む。 ★長音[ちょうおん] 助詞[じょし]「を」
【語彙・表現】 おかあさん おばあさん おにいさん おじいさん ふうせん ゆうやけ おねえさん おとうさん いもうと おとうと まほうの ほうきで そら とぶ おばさん。 げんきに たいそう おばあさん。	
くちばし (読⑥、書②) 助詞「は」	◎語と語の続き方に注意し、助詞[じょし]「は」を正しく表記[ひょうき]して文を書く[かく]。
【語彙・表現】 これは、なんのくちばしでしょう。 これは、きつつきのくちばしです。 いろいろな とりのくちばしの かたちを みて みましょう。 さきが するどく とがった くちばしです。 これは、なんの くちばしでしょう。 これは、きつつきの くちばしです。 きつつきは、とがった くちばしで、きに あなを あけます。 そして、きの なかに いる むしを たべます。	
おもちやとおもちや (書②) 拗音 ちいさくかくかな「やゅよ」	★拗音[ようおん]のある語[ご]を正しく表記[ひょうき]して文を書く[かく]。
【語彙・表現】 じてんしゃ あくしゅ としょかん しょっき じゃんけん ぎゅうにゅう おきやくが ぎょうれつ しょうてんがい。 おもちの ならぶ おもちやさん。 おもちやが いっぱい おもちやさん。	
おもいだしてはなそう (話・聞③) 順序立てて話す	◎自分の体験を思い出し、姿勢や話し方に注意して順序立てて話す。 ◎経験を報告し、それを聞く。「いつ・どこで・誰と・何を・どうした」

【語彙・表現】

ぼくは、きのう、ともだちと おにごっこを しました。 ともだちを いっぱい つかまえました。
なんにん つかまえましたか。

あいうえおであそぼう
(読①、話・聞①、伝国①)
音節・発音・口形

- ◎遊び歌の語や文のまとまりや内容、言葉のおもしろさを楽しみながら声に出して読む。
- ◎平仮名を読んだり、五十音表を利用して正しく書いたりする。
- ◎音節と文字の関係や、アクセントによる語[ご]の意味[いみ]の違い[ちがい]。に気づく。

【語彙・表現】

あやとり	いすとり	あいうえお
かきの み	くわの み	かきくけこ
さんかく	しかく	さしすせそ
たこいと	つりいと	たちつてと
なのはな	のの はな	なにぬねの
はるの ひ	ふゆの ひ	はひふへほ
まつむし	みのむし	まみむめも
やかん	ようかん	やいゆえよ
らんらん	るんるん	らりるれろ
わくわく	わいわい	わいうえをん

あしたは	えんそく	あいうえお
たんけん	てくてく	たちつてと
らくがき	るんるん	らりるれろ

- ▼たてに よんで みましょう。
あいうえお かきくけこ
- ▼よこに よんで みましょう。
あかさたな はまやらわ
- ▼たのしく よみましょう。
ながく のばして ひそひそごえで
- ▼ことばを みつけましょう。

おおきくなった (書④)
句読点

- 語と語の続き方に注意し、句読点を使ってつながりのある文を書く。

【語彙・表現】

はっぱが、おおきく なったね。わたしの てと おなじくらいだよ。
さわると、ちくちくと して いるね。

- ・いろ ・かたち ・おおきさ ・たかさ ・ふとさ ・おもさ ・さわったかんじ ・におい ・かず
- おおきく おおうさん

おむすびころりん (読⑤)
音読

- ◎語や文としてのまとまりや内容、文章のリズムに注意しながら読む。
- ◎場面の様子や登場人物について想像を広げながら読む。

【語彙・表現】

むかし	むかし	やまの	はたけ	たがやして	おなかが	すいた	おじいさん	おむすび	つつみ	ひろげた	その	
とたん	ひとつ	ころがって	ころころ	ころりん	かけだした	まて	まて	まてと	はたけの	すみ	あな	すっ
とんとんと	とびこんだ	のぞいて	みた	まっくら	みみを	あてたら	「おむすび	ころりん	すっ	とんとん	ころこ	
ろ	ころりん	すっ	とんとん」	ふたつめ	きこえる	きこえる	おなじ	うた	あしを	すべらせて	じぶんも	あなへ
すっ	とんとん	ねずみの	おうち	ごちそう	さあ	どうぞ	おどり	おれい	こづち	おばあさん	こづちを	より
より	あれ	あれ	あれ	しろい	おこめが	ぎあらざら	きんの	こばんが	ぎ	っく	ぎく	

日本語(国語)【小1】7月 指導カリキュラム(日本語テキスト・ユニット・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小1 7月 ユニット・指導内容・ステップ

【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 **【S1】 21：5** **【S2】 13：5** **【S3】 6：6** **【S4】 2：6**

ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容 ○S1 初期指導 ○S2 初級指導
たからものをおしえよう (話・聞④) 言葉の働き	◎姿勢や話し方に注意して、順序立てて友達に説明できる。 ・事物を説明する言葉の働き
<hr/> <p>【語彙・表現】 この かいがらが、 ぼくの たからものなんだ。 きれいでしょ。</p> <p>だれに もらったの。</p> <p>ぼくの たからものは、 この かいがらです。 おじいちゃんが、 ぼくの ために、 うみで みつけて くれました。</p>	
はをへをつかおう (書③) 助詞 「は」「を」「へ」	◎語[ご]と語[ご]をつなぐ ★助詞[じょし]「は」「を」「へ」を正しく使[つか]って文を書く[かく]。
<hr/> <p>【語彙・表現】 かわに、わにが すんで いた。 わには、かわから かおを だし、 どこへ いこうか、かんがえた。 わには、きしべに ねころぶと、 なにを しようか、かんがえた。</p> <p>わに は あらう。 かお を あらう。</p> <p>わに は かえる。 いえ へ かえる。</p>	

▼ぶんを つくりましょう。

すきなことなあとに (書④)
ようすを あらわす ことば
主語と述語・句読点

◎「すきなもの」と「その理由[りゆう]

を、その順序[じゅんじょ]で2文で書く[かく]。
・主語と述語の関係や句読点に気をつけて書くことができる。

【語彙・表現】

わたしは、うたを うたう ことが すきです。 みんなで うたうと、たのしいからです。

おおきなかぶ (読⑥)
繰り返しの言葉

◎繰り返しの言葉や文章のリズムを考えながら音読する。
◎場面の様子や登場人物について想像を広げながら読む。

【語彙・表現】

おじいさん かぶのたね まきました あまい あまい かぶ ぬこうと 「うんとこしょ、どっこいしょ。」 けれど
も、かぶは ぬけません。 おじいさんは、おばあさんを よんで きました。 ひっぱって まご いぬ ねこ ねず
み どうとう、かぶは ぬけました。

▼おはなしを、みんなで たのしみましょう。

■ やくを きめて よもう

■ うごきながら こえに だそう

ほんはともだち (読②)
読書

◎自分の読みたい本を選んで読む。
読み聞かせ[よみきかせ]

【語彙・表現】

いっしょに よもう。 いろいろな ほんが あるね。 むしの ほんは あるかな。 この えが おもしろいよ。
この ほんには、みた ことの ない むしの しゃしんが、たくさん のって います。 みて いると たのしく なって
きます。 しゃしんが いっぱい あって、おもしろそう。 いちばん おもしろかった ところを よみます。 きいて く
ださい。

こんなことをしたよ (書⑥)
語と語、文と文とのつながり

◎知らせたい体験を決めて必要な事柄を思い出して集め、語と語、文と文とのつながりに注意して書く
ことができる。

【語彙・表現】

はなびたいかい すずき はるか
わたしは、どうぶつに、おじいちゃんとはなびを みました。
さらに、おおきな はながさいたみたいでした。
とてもきれいでした。

日本語(国語)【小1】9月 指導カリキュラム(日本語テキスト・ユニット・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小1 9月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容 ○S1 初期指導 ○S2 初級指導
いちねんせいのうた (読②) 音読	◎語のまとまりや言葉の響きなどを考えながら、工夫[くふう]して音読[おんどく]する。 リズム、声の大きさ、速さ、読む人数
【語彙・表現】 あおい そらの こくばんに なに かこう うでを のばし ちからを こめて まっすぐ いちねんせいの ー	ぼくも かく わたしも かく いちねんせいの ー いちばん はじめの ー おひさま みてる かぜが ふく
なつやすみのことを はなそ う (話・聞④) ていねいな いいかた	◎話[はなし]の順序[じゅんじょ]を考えながら[かんがえながら]丁寧[ていねい]な言葉[ことば]を使[つか]って話す[はなす]。 聞く[きく]ときのマナー
【語彙・表現】 なつやすみに、なにを しましたか。どんな ことが ありましたか。 みんなに しらせたい ことを はなしましょう。	
ひらがなあつまれ (書②) ひらがなの読み書き	◎平仮名[ひらがな]を読ん[よん]だり書い[かい]たりする。
【語彙・表現】 たて、よこ、ななめに、たくさんの ことばが かくれて います。 かくれて いる ことばを みつけましょう。みつけた ことばを ていねいに かきましょう。 ことばを つなげよう きつね ねこ こい いるか かめ めだか ことばを あつめよう はじめに かの つく ことば かさ かわ おわりに きの つく ことば ゆき あき	
ゆうやけ (読⑧) 登場人物	◎登場人物の行動を中心に、想像を広げながら読む。 朗読CD ・登場人物の言動を押さえながら、話の展開を整理する。
【語彙・表現】 きつねの こ あたらしい ズボン はきました ひとまわり おおきくて ポケットが ふたつ 「いいな。とっても	

いい。」 おがわの みずに すがたを うつして うっとり みずあそび おひるすぎ くさはら くまの こと、うさぎの こ どっちかが、ズボンに きが ついて くれると いいのに けれど、 にひき むちゅう なかまいり ころが げまわったり、とびはねたり やがて、 ゆうがた そらいちめん ひのような ゆうやけ ひろがりました 「そらが まっかだね。」 「きつねくんの ズボンの いろだね。」 そして、 「あ、その ズボン。」 「あたらしい ズボンだね。」 くちぐちに こえを あげました。 おっきい りょうてを ポケットに つっこんで、にっこり 「いいよ。とっても いい。」 うなずきました。さんびき かたを ならべて かげぼうし ▼いちばん すきな ところは どこですか。 すきな ところを、こえに だして よみましょう。

▼この おはなしには、だれが でて きましたか。

▼さんびきに なった つもりで、つぎの ことばを こえに だして よみましょう。
「あ、その ズボン。」 「あたらしい ズボンだね。」 「うん、ちょっと おっきいけど。」 「いいよ。とっても いい。」

▼きつねの こと、にて いるなど おもった ところは ありますか。
「ゆうやけ」は、この おはなしの だいめい です。
おはなしを つくった ひとを、その おはなしの さくしゃと いいます。

かたかなをみつけよう (書②)
長音、促音、拗音

★ 片仮名[かたかな]の語[ご]を正しく読ん[よん]だり書い[かい]たり、片仮名[かたかな]で書く[かく]語[ご]を使[つか]った文を書い[かい]たりする。

【語彙・表現】

コップに ぎゅうにゅう おさらに サラダ パンには ジャムを つけましょう
スープは スプーンで のみましょう ゼリーは しょくごの おたのみ
・のばす おん スープ (ふうせん) ・ちいさく かく かたかな コップ (はらっぱ) ジャム (じゃんけん)
▼かたかなの ことばをみつけましょう。

うみのかくれんぼ (読⑧)
☆生き物に興味をもつ題材(生活科)
主語と述語

◎主語[しゅご]と述語[じゅつご]の関係[かんけい]に注意[ちゅうい]して文章[ぶんしょう]を読む[よむ]。
・最初の「問い」 3種類の海の生き物 生き物の隠れ場所と隠れる方法
・1文目に海の生き物とその隠れ場所、2文目に体の仕組みや機能、3文目に隠れる方法

【語彙・表現】

うみには、いきものが かくれて います。 なにが、どのように かくれて いるのでしょうか。
1文目ーはまぐりが、すなの なかに かくれて います。
2文目ーはまぐりは、大きくて つよい あしを もって います。
3文目ーすなの なかに あしを のばして、すばやく もぐって かくれます。
たこ うみの そこ からだの いろを かえる まわりと おなじ いろに なって
もぐずしよい いわの ちかく はさみで、かいそうなどを小さくきる かいそうなどをからだにつけて、へんしん
▼うみの いきものは、どんなかくれんぼを して いましたか。 ・なにが、どこに どのように かくれて いましたか。

【新出漢字】

大 おおきい こえが大きい 小 ちいさい 小さくきる

はんたいの ことば

日本語(国語)【小1】10月 指導カリキュラム(日本語テキスト・ユニット・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小1 10月 ユニット・指導内容・ステップ

【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 **【S1】 42：10** **【S2】 25：11** **【S3】 12：12** **【S4】 3：13**

ユニット[観点]・日本語テキスト

指導内容 ○S1 初期指導 ○S2 初級指導

かずとかんじ (書②、伝国②)
かずをあらわすかん字
いろいろな数え方

- ★ 数[かず]を表す[あらわす]漢字[かんじ]やいろいろな数え方を書く。
- ★ 漢数字[かんすうじ]の読み方[よみかた]
- ★ いろいろな数え方[かぞえかた]。 皿、りんご、鉛筆などの数え方

【語彙・表現】

一	いち (いっ)	ひとつ	一つ	たたくと、こぶたが	一びき。
二	に	ふたつ	二つ	たたくと、こぶたが	二びき。
三	さん	みっつ	三つ	たたくと、こぶたが	三びき。
四	し よん	よっつ	四つ	たたくと、こぶたが	四びき。
五	ご	いっつ	五つ	たたくと、こぶたが	五びき。
		どんどん	どんどん、	ふえてくる。	
六	ろく (ろっ)	むっつ	六つ	たたくと、こぶたが	六びき。
七	しち なな	ななつ	七つ	たたくと、こぶたが	七びき。
八	はち (はっ)	やっつ	八つ	たたくと、こぶたが	八びき。
九	きゅう く	このこのつ	九つ	たたくと、こぶたが	九びき。
十	じゅう じっ (じゅっ)	とお	十	たたくと、こぶたが	十びき。

のほらは、こぶたで いっぱいだ。

▼おなじように、十まで かぞえましょう。
一つ たたくと、おりがみ 一まい。 じどうしゃは、なんて かぞえるのかな。

【新出漢字】

一	いち	一まい	(いっ)	ひとつ	一つ	六	ろく	六まい	(ろっ)	六びき	むっつ	六つ	
二	に	二びき	ふたつ	ふたつ		七	しち	七にん	なな	七びき	ななつ	七つ	
三	さん	三びき	みっつ	三つ		八	はち	八まい	(はっ)	八びき	やっつ	八つ	
四	し	四	よん	四びき	よっつ	四つ	九	きゅう	九びき	く	九	このこのつ	九つ
五	ご	五びき	いっつ	五つ		十	じゅう	十まい	じっ	〈じゅっ〉	十びき	とお	十

くじらぐも (読⑧)
あらすじ
かぎ (「 」)

- ◎場面の様子を想像し、その様子が表れるように声に出して読む。
- あらすじをとらえる。登場人物の行動
- ◎会話文はかぎ (「 」) を使って書く。

【語彙・表現】

四じかんめ 一ねん二くみの 子どもたち たいそうを して いる 空 大きな くじら まっしろい くもの くじ
ら 「一、二、三、四。」 のびたり ちちんだり しんこきゅう かけあしでうんどうじょうを まわる 空を まわりまし

た せんせい ふえを ふいて とまれの あいず 「まわれ、みぎ。」 ごうれいをかける 「おうい。」 「ここへ おいでよう。」 きそいました。 とびのろう 男の子も、女の子も はりきりました 手をつないで まるいわ 「天までとどけ、一、二、三。」 ジャンプ やっと三十センチぐらい 「もっと たかく。もっと たかく。」 おうえん こんどは、五十センチぐらい その とき いきなり、かぜが、みんなを 空へ ふきとばしました。 あっと いう ま 「さあ、およぐぞ。」 青い 青い空の なか うみの ほうへ むらの ほうへ まちの ほうへ どこまでも どこまでも 「おや、もう おひるだ。」 うでどけい 「では、かえろう。」 ジャンブルジム 「きょうなら。」

▼「くじらぐも」を、こえに だして よみましょう。 いいな、すきだなと おもった ところは ありますか。

▼かぎ(「」)の ところは、どのように よみますか。

もっと たかく。 もっと たかく。 天まで とどけ、一、二、三。

▼一ねん二くみの みんなは、くもの うえで、どんな ことを はなしたでしょう。

うわあ、まちが 小さく みえる。

ことば

▼はなした ことばは、かぎ(「」)をつかって かきます。

かぎを つかって、ノートに かきましょう。

みんなは、大きな こえで、おうい。

と よびました。

おうい。 と、くじらぐも こたえました。

【新出漢字】

子 こ 子どもたち

空 そら 青い空

男 おとこ 男の子

女 おんな 女の子

手 て 手をつなぐ

天 てん 天にとどく あま 天の川

青 あお 青い空

しらせたいな、見せたいな

(書⑩)

文章の読み返し

◎書い[かい]た文を読み返す[よみかえす]。

◎語と語や文と文の続き方

学校に いる いきものや、学校で 見つけた もの

1 しらせたい ものの えと、見つけた こと 2 見つけた こと 3 かいたら、よみかえす。

・文の おわりには、まる (。) が ついて いますか。

・てん (,) を つけた ほうが よみやすい ところは ありませんか。

・字は、正しく かけて いますか。

【新出漢字】

見みる とけいを見る

学がく 学校

校こう 学校

虫むし 虫がいる

文ぶん 文しょう もん 文字

字じ 字をかく

正ただしい 正しいしせい しょう お正月

日本語(国語)【小1】11月 指導カリキュラム(日本語テキスト・ユニット・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小1 11月 ユニット・指導内容・ステップ																	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 42：10 【S2】 25：11 【S3】 12：12 【S4】 3：13																	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容 ○S1 初期指導 ○S2 初級指導																
まちがいをなおそう (書②) 間違い直し	◎書いた文章を読み返したり、間違いを正しく直したりすることができる。 ◎P21の文章例を読み、文字の間違いを直す。																
<p>【語彙・表現】</p> <p>ことば まちがいを なおそう。 まちがって いる ところを なおしましょう。 十がつ二十五にち にちようび きょうわ、おばあちゃんの いええ いきました。 わたしわ、はなに みずを やる てつだいお しました。みずを やりすぎないように きお つけました。 おばあちゃんに、「ありがとう。おはなが げんきに なったよ。」と いわれました。</p>																	
かん字のはなし (書③、伝③) かんじのかきじゅん にている漢字 漢字の成り立ち	<p>★ 漢字[かんじ]の書き順[かきじゅん] ★ にている漢字[かんじ] ◎漢字の成り立ち</p>																
<p>【語彙・表現】</p> <p>はじめは、かんたんな えのような もの 「やま」の すがたから、「山」 「みず」の ながれる ようすから、「水」 空から「あめ」が ふる ようすから、「雨」 「うえ」に、ものが ある ことを しめす しるしから、「上」 「した」に、ものが ある ことを しめす しるしから、「下」</p> <p>【新出漢字】</p> <table border="0"> <tr> <td>山 やま 山にのぼる</td> <td>木 き さくらの木 もく 木よう日</td> </tr> <tr> <td>水 みず 水がながれる すい 水よう日</td> <td>田 た 田んぼ</td> </tr> <tr> <td>雨 あめ 雨がふる</td> <td>川 かわ 川をわたる</td> </tr> <tr> <td>上 うえ つくえの上 あげる つり上げる</td> <td>林 はやし すぎの林</td> </tr> <tr> <td>のぼる かいだんを上る</td> <td>森 もり 森へいく</td> </tr> <tr> <td>下 した つくえの下 おりる かいだんを下りる</td> <td>月 つき 月がでる がつ 十一月 げつ 月よう日</td> </tr> <tr> <td>しも 川下 さがる ぶら下がる</td> <td></td> </tr> <tr> <td>日 ひ 日が のぼる にち 十七日 か 三日</td> <td></td> </tr> </table>		山 やま 山にのぼる	木 き さくらの木 もく 木よう日	水 みず 水がながれる すい 水よう日	田 た 田んぼ	雨 あめ 雨がふる	川 かわ 川をわたる	上 うえ つくえの上 あげる つり上げる	林 はやし すぎの林	のぼる かいだんを上る	森 もり 森へいく	下 した つくえの下 おりる かいだんを下りる	月 つき 月がでる がつ 十一月 げつ 月よう日	しも 川下 さがる ぶら下がる		日 ひ 日が のぼる にち 十七日 か 三日	
山 やま 山にのぼる	木 き さくらの木 もく 木よう日																
水 みず 水がながれる すい 水よう日	田 た 田んぼ																
雨 あめ 雨がふる	川 かわ 川をわたる																
上 うえ つくえの上 あげる つり上げる	林 はやし すぎの林																
のぼる かいだんを上る	森 もり 森へいく																
下 した つくえの下 おりる かいだんを下りる	月 つき 月がでる がつ 十一月 げつ 月よう日																
しも 川下 さがる ぶら下がる																	
日 ひ 日が のぼる にち 十七日 か 三日																	
ことばを見つけよう (伝②)	◎文の中に隠れた言葉を補いながら言葉遊びの文を読んだり、意味を考えながら言葉遊びの文を作った																

文字の組み合わせ
意味のある言葉

「～がいる。」 「～がある。」

りすることができる。(伝国(1)イ(ア))
◎文字を組み合わせると意味のある言葉になることに気づく。

「が いる。」 「が ある。」

- ・「いる」と「ある」の使い方の違い
- ・「がいる。」 「がある。」 という文。

【語彙・表現】

かばんの なかには、かばんが いる。

はちまきの なかには、が いる。

ぶたいの なかには、が いる。

いわしの なかには、が いる。

みかんの なかには、かんが ある。

すいとうの なかには、が ある。

パンダの なかには、が ある。

はたけの なかには、が ある。

じどう車くらべ (読⑥、書⑥)
文と文の続き方
片仮名の表記
句読点の使い方

- ◎大事な言葉や文と文の続き方に注意しながら、つながりのある文を書く。
- ◎片仮名の表記方法や句読点の使い方を理解している。
- ★句読点[くとうてん]を使[つか]ってつながりのある文を書く[かく]。

【語彙・表現】

いろいろな じどう車 どうろ どんな しごと どんな つくり
 バスや じょうよう車 人を のせて はこぶ しごと その ために、 ぎせき ひろく けしきが 見えるように 大き
 な まど
 トラック にもつを はこぶ しごと その ために、 ひろい にだい おもい にもつを のせる トラック タイヤが
 たくさん ついて います。
 クレーン車 おもい ものを つり上げる しごと その ために、 じょうぶな うでが、 のびたり うごいたり するよう
 に、 つくって あります。 しっかりした あしが、 ついて います。

- ▼はじめて した こと を はな しましょう。
- ▼どんな じどう車 が でて きましたか。
- ▼じどう車 の しごと と つくり を、 ノート に かき しましょう。
- ▼はしご車 は、 かじ の とき に はたらく じどう車 です。
 どんな しごと を して いますか。 その ために、 どんな つくり に なって いますか。
- ▼ほかに、 どんな じどう車 が ありますか。 しごと と つくり を かき しましょう。

【新出漢字】

車 しゃ じどう車 くるま 糸車 (ぐるま)
人 ひと 人をのせる

日本語(国語)【小1】12月 指導カリキュラム(日本語テキスト・ユニット・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小1 12月 ユニット・指導内容・ステップ			
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7			
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容 OS1 初期指導 OS2 初級指導		
かたかなをかこう (書②) 片仮名の長音や拗音、促音	◎片仮名の語を正しく読んだり、片仮名で書く語を使った文を書いたりすることができる。		
<p>【語彙・表現】 のばす おんや、小さく かく かたかなに きを つけて かきましょう。</p> <p>ソース ロープ コーヒー スキー ヘルメット シャベル ニュース チョーク</p>			
まのいいりょうし (読①) 読み聞かせ	◎読み聞かせを聞きながら、登場人物の行動を中心に、様子を想像する。 挿絵[さしえ]をじっくり見ながら、聞く[きく]。		
むかしばなしがいっぱい (読①、伝国②)	昔話[むかしばなし]を読ん[よん]だり、聞い[きい]たりする。 ◎日本や外国の昔話		
<p>【新出漢字】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">中 なか おはなしの中 力 ちから 力をあわせる</td> <td style="width: 50%;">竹 たけ 竹やぶ 出 出る 月が出る だす おかねを出す</td> </tr> </table>		中 なか おはなしの中 力 ちから 力をあわせる	竹 たけ 竹やぶ 出 出る 月が出る だす おかねを出す
中 なか おはなしの中 力 ちから 力をあわせる	竹 たけ 竹やぶ 出 出る 月が出る だす おかねを出す		
ともだちに、きいてみよう (話・聞④) 話す順序	◎話す順序を考えながら、丁寧な言葉で話したり、大事なことを落とさずに聞いたりする。 ◎友達に質問する。 音声CD		
<p>1 ともだちに、いま、いちばん たのしいと おもう ことを ききましょう。</p> <p>2 みんなに しらせましょう。</p>			
日づけとよう日 (書②、伝国①)	★ 日づけとよう日の読み方。 ◎漢数字の読み方と日づけの読み方を見比べる。		
<p>【語彙・表現】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">一月一日 お正月。 二月二日は みんなで こたつ。 三月三日は ももの はな。 四月四日は さくらの はなみ。 五月五日は こいのぼり。</td> <td style="width: 50%;">お日さま 大すき、日よう日。 月が 出た 出た、月よう日。 火の ようじんだ、火よう日は。 ホースで 水まき、水よう日。 くりの 木 見つけた、木よう日。</td> </tr> </table>		一月一日 お正月。 二月二日は みんなで こたつ。 三月三日は ももの はな。 四月四日は さくらの はなみ。 五月五日は こいのぼり。	お日さま 大すき、日よう日。 月が 出た 出た、月よう日。 火の ようじんだ、火よう日は。 ホースで 水まき、水よう日。 くりの 木 見つけた、木よう日。
一月一日 お正月。 二月二日は みんなで こたつ。 三月三日は ももの はな。 四月四日は さくらの はなみ。 五月五日は こいのぼり。	お日さま 大すき、日よう日。 月が 出た 出た、月よう日。 火の ようじんだ、火よう日は。 ホースで 水まき、水よう日。 くりの 木 見つけた、木よう日。		

六月六日は わかばの こみち。
 七月七日は 天の川。
 八月八日は なつ休み。
 九月九日 虫の こえ。
 十月十日は ハイキング。ロープウエーにも のりたいな
 十一月十一日 おちばひろい。
 十二月二十日は、はやく こい こい お正月。

お金を だいに、金よう日。
 土あそび する、土よう日だ。

【新出漢字】

火 ひ 火のようじん か 火よう日
 休 やすむ なつ休み (やすみ)

金 かね お金 きん 金よう日
 土 つち 土あそび ど 土よう日

ずうっと、ずっと、大すきだよ (読④、書④)
 登場人物の行動
 くつつけることば

◎場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。
 文と文のつながり

【語彙・表現】

エルフ セかいで いちばん すばらしい 犬 エルフの ほうが、ずっと 早く、大きく なった ぼくらは、いっしよに
 ゆめを 見た にいさんや いもうとも、エルフのことが 大すき でも、エルフは、ぼくの 犬だった まい日 いっしよ
 に あそんだ りすを おいかけのが すき ママの かだんを ほりかえすのが すき わるさ うちの かぞく い
 つしか、ときが たって いき ぼくの セが、ぐんぐん のびる エルフは、どんどん ふとって いった エルフは、とし
 を とって さんぽを いやがる ぼくは、とても しんぱいした。 じゅういさん でも、じゅういさんにも、できる こ
 とは なにも なかった 「エルフは、としを とったんだよ。」 まもなく、エルフは、かいだんも 上れなく なった。 ぼ
 くの へやで ねなくちゃ いけないんだ。 「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」 きっと わかって くれたよね。 ある
 あさ、 目を さますと、 エルフが、しんで いた。 いつか ほかの 犬を かうだろうし、子ねこや きんぎよも か
 うだろう。 まいばん、きっと いった やるんだ。 「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」 って。

「ずうっと、ずっと、大すきだよ」をよんで、すきな ところや、おもしろかった ところは、どこですか。
 がいこくごの 文しょうを、にほんごの 文しょうに なおす ことを、やくすと いいます。
 やくした 人は、やくしゃと いいます。
 ハンス=ウィルヘルム さく・え ひさやまたいち やく

【新出漢字】

本 ほん 本をよむ
 犬 いぬ すばらしい犬
 早 はやい 早くおきる
 目 め 目をさます

日本語(国語)【小1】1月 指導カリキュラム(日本語テキスト・ユニット・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小1 1月 ユニット・指導内容・ステップ													
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 [S1] 31：8 [S2] 19：8 [S3] 9：9 [S4] 2：7													
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容 ○S1 初期指導 ○S2 初級指導												
てんとうむし (読②) 語のまとまり	◎語[ご]のまとまりごとに意味[いみ]を考えながら[かんがえながら]音読する。 ・長音、促音をはっきり発音しながら、繰り返し音読する。												
<p>【語彙・表現】</p> <p>いっぴきでも てんとうむしだよ ちいさくても ぞうと おなじ いのちをいっこ もって いる ぼくを みつけたら こんにちはって 行ってね そしたら ぼくも てんとうむしの ことばで こんにちはって いうから きみには きこえないけど</p>													
ものの名まえ (話・聞②、伝④) なかまどうしのことば なまえことば	★ 上位語[じょういご](さかなや)・下位語[かigo](あじ、さんま)の関係[かんけい]。 ★ 意味[いみ]による語句[ごく]のまとまり。												
<p>【語彙・表現】</p> <p>ものには、一つ一つに 名まえが ついて います。 りんご、みかん、バナナなどは、一つ一つの 名まえです。 一つ一つの ものを、まとめて つけた 名まえも あります。 りんご、みかん、バナナなどを まとめて つけた 名まえは、くだものです。</p> <p>さかなも、まとめて つけた 名まえです。 一つ一つを わけて いうときには、あじ、さば、たいなどと、一つ一つの 名まえを つかいます。</p> <p>【新出漢字】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%;">名 な</td> <td style="width: 30%;">名まえ</td> <td style="width: 30%;">百 ひゃく</td> <td style="width: 10%;">五百円</td> </tr> <tr> <td>夕 ゆう</td> <td>夕がた</td> <td>円 えん</td> <td>五百円</td> </tr> <tr> <td>町 まち</td> <td>町へ いく</td> <td>千 せん</td> <td>千円さつ</td> </tr> </table>		名 な	名まえ	百 ひゃく	五百円	夕 ゆう	夕がた	円 えん	五百円	町 まち	町へ いく	千 せん	千円さつ
名 な	名まえ	百 ひゃく	五百円										
夕 ゆう	夕がた	円 えん	五百円										
町 まち	町へ いく	千 せん	千円さつ										
かたかなの かたち (書③)	◎形の似て[にて]いる片仮名[かたかな]と平仮名[ひらがな]。												

形の似ている仮名

◎身の回り[みのまわり]にある片仮名[かたかな]。

【語彙・表現】

かたちの にて いる 字が あります。

- ・かたかなと ひらがな
- ・かたかなと かたかな
- ・まちがえやすい かたかな

▼かたちに きを つけて かきましょう。

ネクタイ シャワー デパート オルガン ミシン カヌー ヲ

てがみでしらせよう (書⑥)
文と文の続き方

◎文と文の続き方に注意して書くことができる。
(書(1)ア・ウ)

- ・句読点の打ち方や主語と述語の関係。

日本語(国語)【小1】2月 指導カリキュラム(日本語テキスト・ユニット・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小1 2月 ユニット・指導内容・ステップ

【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 **【S1】 42：10** **【S2】 25：11** **【S3】 12：12** **【S4】 3：13**

ユニット[観点]・日本語テキスト

指導内容 ○S1 初期指導 ○S2 初級指導

たぬきの糸車 (読⑧)
音読

◎語[ご]のまとまりや言葉[ことば]の響き[ひびき]などについて考えながら[かんがえながら]音読[おんどく]する。

【語彙・表現】

むかし ある 山おく きこりの ふうふ 山おくの 一けんや まいばんのように たぬきが やって きて いた
 ずら わなを しかけました ある 月の きれいな ばんの こと おかみさん 糸車をまわして、糸をつむいで いま
 した。 キーカラカラ キーカラカラ キークルクル キークルクル ふと 気が つくと やぶれしょうじの あな 二
 つの くりくりした 目玉 のぞいて いました くるりくるり 月の あかるい しょうじ かげが うつりました お
 もわず ふき出しそうに それからと いうもの まいばん まいばん 「いたずらもんだが、かわいいな。」 ある ばん
 こやの うら キャーッと いう さけびごえ こわごわ わなに かかって 「かわいそうに。わなになんか かかる
 んじゃ ないよ。たぬきじるに されて しまうで。」 やがて 木の はが おちて ふゆが やって きました 村へ 下
 りて いきました。 はる もどって きました とを あけた とき おかみさんは、あっと おどろきました。 いた
 の間 白い 糸の たば 山のように つんで あった そのうえ、ほこりだらけのはずの 糸車 まきかけた 糸までかか
 って 「はあて、ふしぎな。どう した こっちゃ。」 土間 キークルクル キークルクル 糸車の まわる 音 いたどの
 かげ ちゃいろの しっぽ ちらりと 見えました そっと のぞく いくつかの たぬき じょうずな 手つき 糸を
 つむいで いる ぴよこんと そとに うれしくて たまらない ぴよんぴよこ おどりながら かえって いましたと
 さ。

- ▼たぬきは、どんな ことを しましたか。
- ▼おかみさんは、たぬきの した ことを 見て、どう おもったでしょう。
- ▼おはなしを よんで、どんな ことを おもいましたか。
- ・たぬきが した こと ・おかみさんが たぬきに して あげた こと

【新出漢字】

糸 いと 糸車
 気 き 気がつく
 玉 たま 目玉 (だま)

村 むら 村へ下りる
 白 しろい 白い 糸
 音 おと 音がきこえる

ことばをたのしもう (伝国②)
 早口言葉
 音節と文字の関係 濁音

★早口言葉[ことば]。
 ◎音節と文字の関係や、単語とそれを構成する文字の関係
 ◎濁音[だくおん]の入った詩[し]を読む[よむ]。

ぞうさんの ぼうし
 ぎじぜぞうさん
 ぎくろの えだに

きときってかってきて
 きときってかってはってきて
 (たにかわ しゅんたろう)

がぎぐげごつんと
 ぶつかって
 だちづでどしんと
 でんぐりがえり
 ばびぶべぼうし
 ばびぶべほんど
 ふっとんだ
 (なかがわ りえこ)

はやくちことば
 なまむぎ なまごめ なまたまご
 あおまきがみ
 あかまきがみ
 きまきがみ
 かえる ひよこひよこ
 三ひよこひよこ
 あわせて ひよこひよこ
 六ひよこひよこ

これは、なんでしょう (話・聞④)

◎「ことば」の問題[もんだい]を作る[つくる]。

学校に あります。 まるい かたちを しています。 これは、なんでしょう。
 どれぐらいの大きさですか。 うごきますか。

- 1 もんだいに する ものを ふたりで きめて、 かたちや はたらきなどを かきます。
- 2 かいた ことを どの じゅんばんで いうかを、 はなしあいましょう。
- 3 もんだいを 出しましょう。

どうぶつの赤ちゃん (読⑩)
 主語と述語の関係 敬体

◎主語[しゅご]と述語[じゅつご]の関係[かんけい]に注意[ちゅうい]して、つながりのある文を書く[かく]。
 ・敬体で書かれた説明。

【語彙・表現】

どうぶつの 赤ちゃん 生まれたばかりのとき どんな ようす どのように して、大きく なって いくのでしょうか。
 ライオンの 赤ちゃん 生まれた ときは、子ねこぐらいの大きさ 目や 耳は、とじた まま よわよわしくて じぶん
 では あるく ことが できません。 よそへ いく ときは、口に くわえて はこんで もらう 生まれて 二か月ぐらいは、
 おちちだけ のんで います 一年ぐらい たつと えものの とりかたを おぼえます。 しまうまの 赤ちゃん 生まれた
 とき やぎぐらいの 大きさ 目は あいて いて、耳も ぴんと たって います。 しまの もようも ついて いて、
 おかあさんに そっくり 生まれて 三十ふんも たたない うちに、じぶんで たち上がります。 つぎの 日には、はしるよ
 うに なります。 つよい どうぶつに おそわれても、にげることが できる おちちだけ のんで いるのは、たった 七日
 ぐらい その あとは、じぶんで 草も たべるように なります。

▼「どうぶつの 赤ちゃん」を よんで、はじめて したことや、ふしぎだなあと おもった ことを はなしましょう。

▼ライオンの 赤ちゃんと しまうまの 赤ちゃんをくらべましょう。

・どんな ところが ちがいますか。 ・大きく なって いく ようすもくらべましょう。

【新出漢字】

赤 あか 赤ちゃん	口 くち 口にくわえる
生 うまれる 犬が生まれる	年 ねん 一年 とし 年をとる
耳 みみ 耳をすます	草 くさ 草をたべる
王 おう 王さま	

ひらがなのしりとり

日本語(国語)【小1】3月 指導カリキュラム(日本語テキスト・ユニット・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小1 3月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 21：5 【S2】 13：5 【S3】 6：6 【S4】 2：6	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容 OS1 初期指導 OS2 初級指導
にているかん字 (伝国③) 形の似ている漢字 よみかたが二つあるかん字 はんたいのいみをあらわすかん字 かんじのかきじゅん	◎形の似て[にて]いる漢字[かんじ]に注意[ちゅうい]して、読ん[よん]だり書い[かい]たりする。 ・漢字の書き順に気をつけて書く。
【語彙・表現】 にて いる かん字に 気をつけて、かきましょう。 ・貝を見つける。 ・人が入ってくる。 ・右足で石をける。 ・早おきをして、草とりをする。 かきじゅんにも気をつけましょう。 ・右を見て、左を見る。 ・土を もり上げる。	
【新出漢字】 貝 かい 貝を見つける 入 はいる へやに入る 入れる 玉入れ 右 みぎ 右足 足 あし 右足 石 いし 石をける 左 ひだり 左を見る	
だってだっておばあさん (読⑧) 場面の様子 登場人物の行動	◎場面[ばめん]の様子[ようす]・登場人物[とうじょうじんぶつ]の気持[きもち] ・教材文の範読を聞く。 ・登場人物を確かめる。 ・三つの場面に分けて、「おばあさん」の行動を整理する。 ・表や、誕生日の前後の「おばあさん」と「ねこ」の会話を比べ、「おばあさん」の変化に気づく。
【語彙・表現】 ある ところ 小さな うち うちの まわりに 小さな はたけ げんかんの そば つりざおと 小さな ながぐつ はんたいがわの まどの 下 いすが 一つ おばあさんと 一ぴきのねこ とても おばあさんで、九十八さい ねこは、 げんきな 男の ねこ ぼうしを かぶって、ながぐつを はいて、つりざおを もって、さかなつり 「おばあちゃんも、さか なつりに おいでよ。」 「だって、わたしは 九十八だもの。」 まめの かわを むいたり、おひるねを したり きょうは、 おばあさんの 九十九さいの おたんじょう日 あさから ケーキを つくりました。 ねこは、おばあさんの つくる ケーキが 大すき ろうそく 九十九本 テーブルかけ ナイフと フォーク ねこは、左手に やぶれた ふくろ 右手に ろう そくを 五本 川の 中に ろうそくを おとして きて しまった あかりを けて 「おばあちゃん、かぞえて。」 五 さいの おたんじょう日、おめでどう つぎの あさ 五さいだから、さかなつりに いくわ 花の においを くんくん か	

ぎながら 「五さいって、なんだか ちょうちょみたい。」 「五さいって、なんだか とりみたい。」 むこうぎし 川下
 「五さいって、なんだか さかなみたい。」 まえかけ 「五さいって、なんだか ねこみたい。」 らいねんの おたんじょ
 う日にも、ろうそく 五本 「でも、おばあちゃん、五さいでも、ケーキ つくるの じょうず。」 ねこは、すこし しんぱい
 そうに ききました。

- ▼おばあさんが した ことを かきましょう。
- ▼ねこが さかなつりに さそうと、おばあさんは、なんといいましたか。
 - ・九十九さいの おたんじょう日の まえ
 - ・おたんじょう日の つぎの 日
- ▼「だって だつての おばあさん」の 中で、「いいな。」「すきだな。」と おもった ところを かきましょう。
 そう おもった わけも かきましょう。

【新出漢字】
 立 たてる ほうを立てる
 花 はな 花がさく

いいこといっぱい、一年生
 (書⑫)
 句読点・会話のかぎ

◎文章を読み返して間違いなどを正す。
 文[ぶん]・句読点[くとうてん]・会話[かいわ]のかぎ

【語彙・表現】

- ・うれしかった こと
- ・たのしかった こと
- ・おどろいた こと
- ・がんばった こと
- ・できるように なった こと
- ・あたらしく した こと

文しょうを かいたら、かきまちがいが ないか、たしかめましょう。
 できあがった 文しょうを、ともだちと よみあいましょう。

【新出漢字】
 先 せん 先生

よこがきの かきかた

あさがおのはっぱが、とてもおおきくなりました。
 おおきさは、わたしのてとおなじくらいです。
 いろは、うすいみどりです。
 さわってみると、ちくちくします。

小さい じゃ、「(、)」や「。」は、まんなかよりも したに かきます。
 いろは、うすいみどりです。